

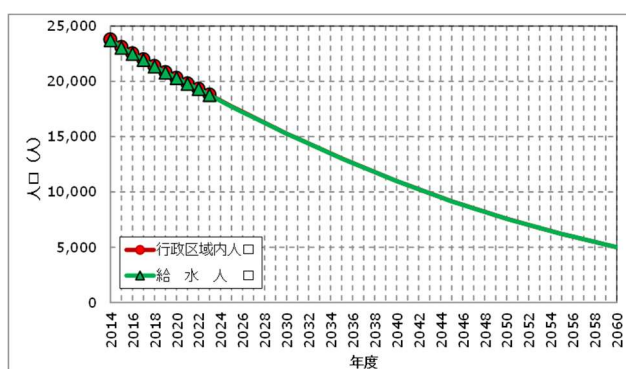
美唄市水道事業経営戦略改定概要版

1. 経営戦略改定の趣旨

水道事業が将来にわたって、サービスの提供を安定的に継続することが可能となるように中長期的な経営の基本計画である「美唄市水道事業経営戦略」を、平成 31 年 3 月に作成しているが策定から 7 年経過しており、人口減少の進行から給水収益が減収しているほか、施設の老朽化に伴う改良更新費用において、社会情勢の変化を踏まえ増加が見込まれることから、経営環境が一段と厳しさを増すと想定しており、中長期的な経営の安定化を目指すため本経営戦略を改定する。

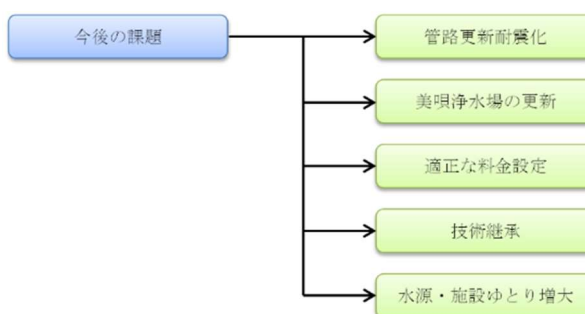
2. 給水人口の予測

経営戦略を目的としているため、各種の政策の効果が少ない場合を想定し、美唄市人口ビジョン(=社会保障人口問題研究所推計)を用い、令和 5 年度(2023)の実績と推計値を基に補正を行う。



3. 経営の基本方針

今後の大きな課題としては、水需要が減少していく中で老朽化が進行している管路や美唄浄水場の在り方を決定することにある。また、この他にも経費削減のため民間の技術を活用することや財源の確保が必要である。



- ・管路更新耐震化：平成 26 年度より継続実施

- ・美唄浄水場の更新：浄水場の更新には多額の費用が必要なため広域化や分散型システムの導入についての検討が必要であるが、導水管の更新については急務である

- ・適正な料金改定：平成 27 年度に料金改定を行なったが、再度の見直しが必要

- ・技術継承：特に技術職員が高齢化しており、若い人材の確保が不可欠

- ・水源：美唄浄水場の見直しの際に広域化やダウンサイジングを目論むことにより、更新費用を軽減

4. 投資・財政計画（収支計画）

本市には、自己浄水場の美唄浄水場と広域水道である桂沢浄水場の2系統の浄水場により配水しているが、桂沢浄水場の全面更新が行われた際には、美唄市の参画水量が7,500 m³/日から2,575 m³/日へと縮小しており、美唄浄水場の大規模更新時には的確な水需要を予測した事業規模としコスト削減を行う必要がある。

また、令和5年度に策定したアセットマネジメント計画では将来必要となる更新事業を平準化した更新計画を立案している。

収益的収支については、一般会計からの繰入により対応しているが、物価の高騰や人件費の増加から施設の維持管理費の収支不足は更に増加する見込みであることから、水道料金の設定について早急に検討していく必要がある。

5. 経営戦略の事後検証・改定等に関する事項

経営戦略については毎年度検証を行い、PDCAサイクルにより継続的な改善を図っていく。

現段階では赤字にならないよう一般会計からの繰入により対応しているが、企業会計として独立採算が図れるよう、水道料金の設定について検討していく必要があるため、社会情勢の変化や経営の見通しを十分に踏まえ、必要な対策を講じる。

